



メールマガジン「ユニバーサルひょうご通信」第151号
発行:兵庫県ユニバーサル推進課 令和5年3月10日



【今月のピックアップ!】

① 視覚に障害のある方と「読書」(点字図書館の役割)

② 第18回兵庫県障害者芸術・文化祭が開催されました

【手話カフェ】

③ CODA(コーダ)をめぐるエピソード

【イベント・募集】

④ ひょうごユニバーサルツーリズム推進フォーラム

【お知らせ】

⑤ 「兵庫県障害者アートギャラリー4月の催し



① 視覚に障害のある方と「読書」(兵庫県点字図書館の役割)

みなさん、視覚に障害のある方の読書方法や点字図書館を知っていますか。兵庫県では、兵庫県にお住まいの視覚に障害のある方への社会生活の充実や就労への一助となるよう、兵庫県点字図書館を運営しています。文字を点字にする点訳だけでなく耳から文字の情報を得るための音訳の役割も果たしています。

○視覚に障害のある方と「読書」

読書は、教養や娯楽を得る手段であるだけでなく、教育や就労など生涯にわたり学びや成長を支える重要なものですが、視覚

に障害がある方は、活字を見て本を読むことが困難なことから、点字図書や録音図書などを利用して「読書」をされています。

○点字図書館の取組

点字図書等は、一般の書店ではあまり販売していません。点字図書館等で、ボランティアを募り、養成して、活字の図書を1字1句、点訳あるいは音訳し、製作された点字図書・録音図書の貸出しを行っています。

また、専門書などをオーディオブックとして製作し提供しています。オーディオブックは、利用者自らが音声変換ソフトを利用し聴読できるテキストデータのことです。音訳や点訳よりも短い作業時間でデータ化できる利点があります。

通常の活字が読みにくい方で、点字図書等に関心のある方は下記へお問い合わせください。

■兵庫県点字図書館

<http://kensikyo.sakura.ne.jp/library.html>

TEL 078-221-4400 FAX 078-221-8924

②「兵庫県障害者芸術・文化祭 美術工芸作品公募展」の受賞者が決定しました。

3月3日から5日まで、第18回兵庫県障害者芸術・文化祭 美術工芸作品公募展を開催しました。全部で383点の応募があり、その中から部門ごとに28点の受賞作品が決まりました。

来年もまた皆さまの心のこもった作品をお待ちしております。

※受賞者一覧および作品の写真是県HPで見られます。

https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf10/hw20_000000009.html

■お問合せ

第18回兵庫県障害者芸術・文化祭実行委員会

(兵庫県福祉部ユニバーサル推進課内)
TEL 078-362-4090 FAX 078-362-9040
Mail universal@pref.hyogo.lg.jp

■障害者文化芸術活動推進法

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaishahukushi/bunka/houritsu_keikaku.html

③ 【手話カフェ】 CODA をめぐるエピソード

2月号で、親に聴覚障害がある聞こえる(聴覚障害のない)子ども、CODA について書きました。

手話カフェを書くにあたり、CODA である人や CODA の親である聞こえない人から聞いた、いろいろなエピソードを思い出しましたので、いくつかお伝えしようと思います。

まず、聞こえない親の方から聞いたお話で印象深いのは、子どもの声がどんな声なのか、何を話しているのか、聞いてみたかったという話です。

自分の子どもが他の人としゃべったり、笑ったりしている。周りの人は「おしゃべりが上手になったねー」などと言う。口の形を見ても何を言っているのか、なかなかわからない。笑ったり、時には人形に向かって何か話しかけていたり、歌を歌ったりしている(ようだ)。スピーカーの前でリズムをとって体を動かす様子もある。

一体何が聞こえるんだろう?どんなことを言っているのかな?どんな声なのかな?

子どもの成長とともに「聞こえるってどんなことなんだろう?」と改めて強く思うようでした。

また、小学校に入ると教科書を音読して、保護者に○をつけてもらうとか、習った歌や楽器を聴いてもらうなどの課題が出ることがあります。そんな時は口の形をよく見たり、一緒にリズムをとったり、工夫をしながら乗り切ったという話も聞きました。

男の子がいる人からは「もう声変わりしたね」と近所の人に言われて「??声変わりって何?息子の声がどうなったの」と思ったと聞きました。体が大きくなるのは見たらわかる、でも、声が変わるという事はどういうことか分からないとおっしゃっていました。言われてみればその通りですね。

次に CODA である人からは、小さなころにお母さんが私の名前を呼ぶとみんなが振り返って見るのが不思議だったとか「(〇〇ちゃんのパパ、ママは)お耳が聞こえなくてかわいそうだねー」「〇〇ちゃんはえらいねー」などと言われる理由がわからなかったなどの話を聞きました。周りの人が何気なく発する言葉や行動が子どもの心に複雑な影響を与えることがわかります。

大人になった CODA の人からは、子どもころは手話をする親の姿に抵抗があった。話すときに他の人と少し違うとか、何も知らない(ように見えた)自分の親を恥ずかしいと思ったこともあった。

けれども、自分が社会人になった時、私の親は、聞こえなくて不便なことも多かったはずなのに、いろんなことを勉強し、知っていて、私のために一生懸命やってくれたということがよくわかった。それからは、自分の親のことを誇りに思うようになり、考えが変わったという話も聞きました。

社会のあり方をふりかえるきっかけとして、広く多くの人にこのような話を聞いてほしいと、書きながら、改めて感じています。私自身も、ひとつひとつの話を聞くことで仕事に向かうときの心構えを学ばせていただいていたと思っています。

■「手話カフェ総集編」もぜひどうぞ！

https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf10/universal/shuwa_cafe1.html

兵庫県では、年齢や障害の有無等に関わらず、様々な方が気兼ねなく旅行を楽しめるユニバーサルツーリズムを推進しています。このたび、先進的な取組事例を紹介する基調講演や、県内各地のユニバーサルツーリズム実践団体の活動報告等を通して、これからのユニバーサルツーリズムについて展望するフォーラムを開催します。

◇日時 2023年3月17日(金)14:30~16:45

◇場所 兵庫県民会館 11 階「パルテホール」
(神戸市中央区下山手通4丁目16-3)

◇参加費 無料

◇定員 80名

◇内容

○基調講演「これからのユニバーサルツーリズム」
(親川 修 NPO 法人バリアフリーネットワーク会議 代表)

○パネルディスカッション

「兵庫県におけるユニバーサルツーリズムの展望について」

【神戸・明石】NPO 法人ウィズアス 鞍本 長利 代表理事

【姫路】NPO 法人コムサロン21 前川 裕司 理事長

【但馬】NPO 法人ぷろじえくと Plus 中井 沙織 相談員

【丹波】一般社団法人みずほの家 山中 信彦 常務理事

【宝塚】宝塚市国際観光協会 村井 大介 事務局長

■お問い合わせ先

神戸ユニバーサルツーリズムセンター(NPO 法人ウィズアス)

TEL・FAX 078-381-6470

Mail info@wing-kobe.org

■詳細はこちら (チラシがダウンロードできます)

<https://www.hyogo-tourism.jp/news/328>

⑤ 「兵庫県障害者アートギャラリー」3月の催し

神戸市灘区の県立美術館王子分館「原田の森ギャラリー」内に

ある「兵庫県障害者アートギャラリー」では、3月21日(火祝)まで「こづかやま laboratory 『しないシナイ』が『したのシタノ』展」を開催しています。

興味のあること、こだわりたいこと、したいことを自由に表現した作品が展示室いっぱいに集まりました。会期も残りわずかです。心の内側から湧き上がるユニークな作品の世界をお楽しみください。

■「こづかやま laboratory 『しないシナイ』が『したのシタノ』展」

と き 開催中～3月21日(火祝)

10時～18時まで(最終日は16時閉場)

ところ 兵庫県立美術館王子分館 原田の森ギャラリー本館1階
(神戸市灘区原田通 3-8-30)

■令和5年4月1日(土)からは人権書道きらきら「きらきら書道展～桑鳩(そうきゅう)生誕の地、三木からの風」展を開催します。

<https://hyogo-arts.or.jp/harada/exhibition/#2438>

■お問合せ

ひょうご障害者芸術文化活動支援センター

(兵庫県ユニバーサル推進課内)

TEL 078-362-4090 FAX 078-362-9040

Mail universal@pref.hyogo.lg.jp

【編集・発行】

イベント情報や、メルマガの配信希望・中止等のご連絡は以下まで

兵庫県福祉部ユニバーサル推進課

〒650-8567 神戸市中央区下山手通 5 丁目 10 番 1 号

TEL:078(362)4379 FAX:078(362)9040

Mail universal@pref.hyogo.lg.jp
